

## 報 告

## 第 52 回日本リハビリテーション医学会学術集会に参加して

公益財団法人鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター附属診療所  
慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室 里宇 文生

## 1. はじめに

第52回日本リハビリテーション医学会学術集会が、5月28日～5月30日の3日間、新潟県新潟市（朱鷺メッセ）で開催され全国から約3,290名（有料参加者）の参加者があった。

## 2. 第52回日本リハビリテーション医学学術集会

本学術集会のテーマは、「今を紡ぎ、未来につなぐ」であり、リハビリテーション医学・医療に携わる者一人ひとりが、それぞれの置かれている環境や立場の中で、今できること、なすべきことを丁寧に紡ぎながら、学術集会という場で一本の太い糸に束ね、力強く未来につなげて行きたいという思いで行われた。

プログラムは、特別講演、教育講演、シンポジウムに加えて一般演題795題、関連専門職ポスター演題261題であった。特別講演には、向井千秋先生（宇宙医学、宇宙航空研究開発機構 JAXA）や Jianan Li 先生（国際リハビリテーション医学会（ISPRM）会長）をはじめとした、認知記憶、筋電図学、霊長類神経科学、バランス障害、多次元脳機能マッピング、磁気刺激、動作解析、ロボット評価、切断などの各分野から、国際的に著名な10名の海外招待者の講演があった。向井先生と海外招聘者には、学術集会参加者が気軽な雰囲気の中で、親しく交流を深めることができるように、少人数での Meet the mentor session にご参加いただいた（写真：Anton Johannesson 先生（切断, Sweden）の Meet the mentor session）。

シンポジウム、パネルディスカッションでは循環



写真 Meet the mentor session の様子（筆者司会）

器、災害、神経科学、がん、認知症、ロコモティブシンドローム、回復期リハビリテーション、呼吸、地域、動作解析などの幅広いテーマが取り上げられた。加えて、難しい症例にチームでチャレンジしながら若手の交流を深めるレジデント企画、日常診療に役立つ6つのハンズオンセミナーがあった。企業展示では、脳波で機械を動かす Brain machine interface (BMI) 技術を基盤にしたリハビリテーション機器や、パラリンピックに向けた走行用義足、レーザーでの呼吸運動評価機器など、医工学が融合した最先端機器に加え、訓練中の介助犬のデモンストレーションもあった。市民公開講座では、歌手のイルカさんにより、パーキンソン病を患われたご主人の介護体験を通じた講演があり、学術集会参加者全員が参加可能な全員懇親会ではミニコンサートも行われた。また、JAXA と共同での宇宙医学研究シンポジウム、5月31日には神奈川県横浜市の慶應義塾大学日吉キャンパスにおいてトップアスリートが語るパラリンピックの魅力のテーマで小・中学生による車椅子バスケット体験とシンポジウムが行われた。地域医療からロボット工学や iPS 細胞などの最先端医療までが対象である、リハビリテーション医学の広がりとお深さを感じることができた学会だった。

公益財団法人鉄道弘済会

義肢装具サポートセンター附属診療所

〒116-0003 東京都荒川区南千住 4-3-3